

【学力向上フロンティアスクール用中間報告様式】

都道府県名	千葉県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	千葉県夷隅郡夷隅町立千町小学校									
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7		
児童数	19	35	28	18	25	18	(1)	143	14	

II 研究の概要

1. 研究主題 一人一人の児童に確かな学力を身につけさせる学習指導のあり方
～個に応じた効果的な指導法（算数科を通して）～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

○全学年（1～6学年）・算数

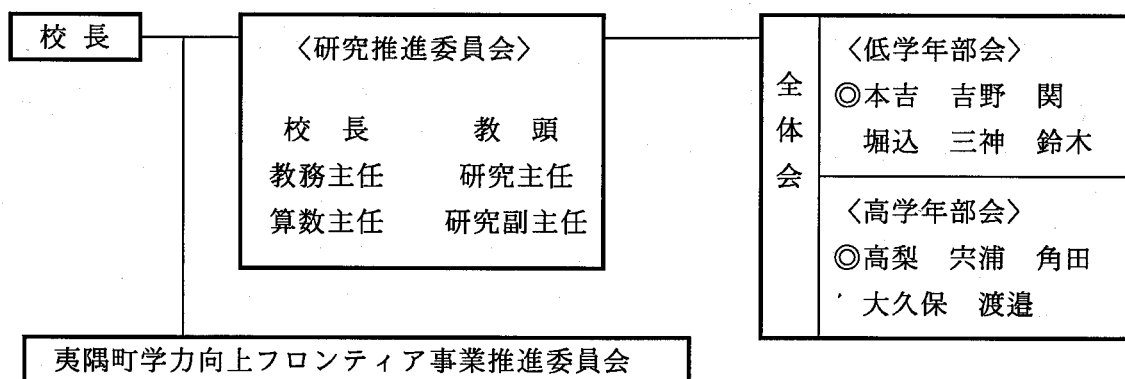
- ・各学年の学習内容の積み重ねが重要な教科であり，理解の状況に個人差が出やすい教科であるため。
- ・個に対応するための多様な支援が期待できる教科であるため。
- ・全職員が学年や児童の実態に合わせた指導方法を求めて積極的に研究に取り組むため。

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	○テーマ	一人一人の児童に確かな学力を身につけさせる学習指導のあり方 個に応じた効果的な指導法（算数科を通して）
	○研究のねらい	自ら考え，よりよく課題を解決していく力を身につけさせる学習形態 や指導方法のあり方を，実践を通して明らかにする。
	仮説 1	児童一人一人を大切にしたいきめ細かな指導を実践していけば，自ら考 え，よりよく課題を解決していく力が形成され，確かな学力を身につけ させることができるであろう。
	仮説 2	児童の実態に応じた，発展的・補充的な学習のための教材開発や指導 形態の工夫をしていけば，児童の主体的な学習が促され，確かな学力を 育てることができるであろう。
	○研究の内容・方法	
	(1) 個に応じたきめ細かな指導のための指導方法・指導体制の工夫	
	・参考文献による理論研究，先進校視察	
	・実態調査に関する文献研究，理論研究，討議	
	・校内体制の見直し	
	・保護者との情報交換	
	(2) 児童の実態に応じた，発展・補充のための教材開発や指導形態の工夫改善	
	・算数科における習熟度別指導の学習内容の吟味と教材開発	
	・補充的な問題，発展的な問題の工夫	
	・補充問題を中心としたフロンティアタイムの活用	
	(3) 検証授業の実施及び考察	
	(4) 町内各小・中学校との相互参観の実施，情報や意見の交換	

平成 16 年 度	○テーマ	一人一人の児童に確かな学力を身につけさせる学習指導のあり方 個に応じた効果的な指導法（算数科を通して）
	○研究のねらい	自ら考え、よりよく課題を解決していく力を身につけさせる学習形態 や指導方法のあり方を、実践を通して明らかにする。
	仮説 1	児童の実態に応じた指導形態の工夫や、発展的・補足的な学習のたの の教材開発をしていけば、学習活動が深まり確かな学力を育てることが できるであろう。
	仮説 2	習熟度別指導の中で、個に応じたきめ細かな支援や評価の方法を工夫 していけば、児童の主体的な学習が促され確かな学力を育てることがで きるであろう。
	○研究の内容・方法	(1)児童の実態に応じた指導形態の工夫や、発展・補充のための教材開発 ・算数科における習熟度別指導の学習内容の吟味と教材開発 ・児童の実態にあった少人数指導を具体化 ・補足的な問題、発展的な問題の工夫改善 (2)個に応じたきめ細かな支援や評価方法の工夫 (3)検証授業の実施及び考察 (4)町内各小・中学校との相互参観の実施、情報や意見の交換

(3)研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1)個に応じたきめ細かな指導のための指導方法・指導体制の工夫

①習熟度別指導を行うことへの児童への事前指導

- ・習熟度別指導の目的を伝える
一人一人の今ある力を伸ばすための少人数指導（習熟度別指導）
よく身に付いていない部分を重点的に学習し直すことの必要性等
- ・生徒指導上の課題への配慮
- ・グループ分けしたことにより意欲を持たせ、やる気を高めていく指導

②習熟度別指導担当者の割り当てと指導場所

- ・全学年の算数の時間で少人数指導を行うために、算数の時間と使用教室が重複しないように

日課表を編成する。

③事前の実態調査

- ・系統を見て、関連単元の定着状況をつかむ（レディネステスト）
- ・本単元の内容に関する状況（プレテスト）
- ・算数への取り組みの様子（情意面）
- ・日常的な学習状況（関心・意欲・態度の面から）の実態
- ・友だちとのかかわりの状況

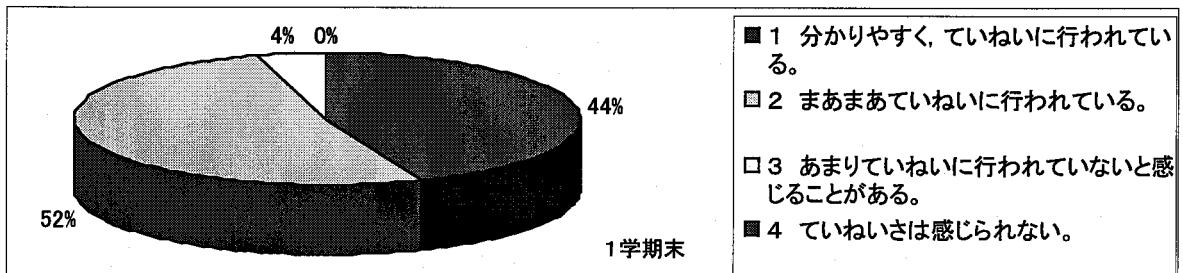
④研究にかかわる保護者や地域の理解と協力

ア 保護者への内容説明と方法

- ・学校便りなどで少人数指導（習熟度別指導）への取り組みについて趣旨説明
- ・PTA総会での説明
- ・授業参観での授業展開
- ・少人数指導に関するアンケート調査の実施（全校保護者，児童）

イ 保護者や児童の反応

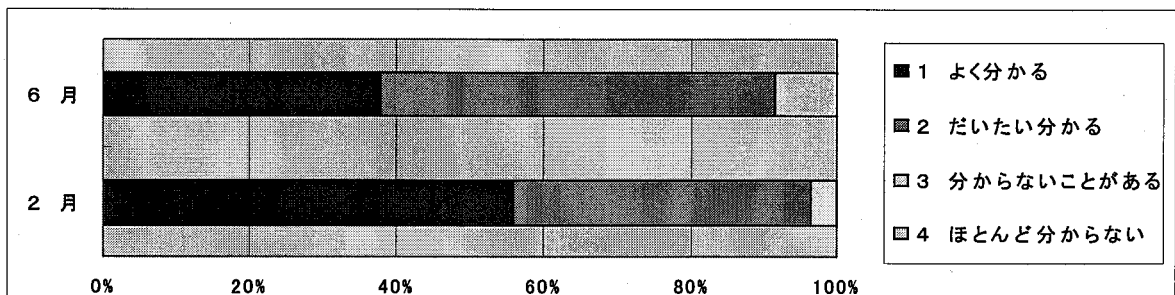
〈質問〉学校での授業は、分かりやすくていねいにされていると思いますか。〈全校保護者〉



【保護者の声】

- ・先生の声が行き届いて、内容が分かりやすい。
- ・発言の回数が増えて学習の実感がある。
- ・子どもが算数を好きになった。
- ・算数の時間を楽しみにしている。

〈質問〉学校の授業はよく分かりますか。〈全校児童〉



【児童の声】

- ・先生が近くて質問がしやすい。
- ・詳しく説明してもらえる。
- ・たくさん発表ができる。
- ・算数が苦手でなくなった。

⑤指導方法の工夫・改善

検証授業（校内授業研究）への取り組み

- ・習熟の状況に合わせた学習の進め方，提示問題，補充・発展の問題の工夫（指導）
- ・少人数指導の機能を生かし，児童一人一人に語りかける場を多くする（支援）
- ・他の児童にない良さを見つけたり，思考の状況を確認したりする機会を確保する（評価）
- ・小単元のまとめ等で中間の習熟度を調べ，グループ分けの修正をする（自己評価カード）

(2)発展・補充のための教材開発や発展問題の工夫改善

①検証授業（校内授業研究）への取り組み

- ・実態に応じた習熟度別指導の学習内容の吟味
- ・指導計画・指導過程の見直し
- ・教材研究

②習熟度に応じた（発展・補充のための）教材の開発

○発展的な内容を取り入れた指導

- ・ステップアッププリント
- ・問題づくり
- ・ゲーム化
- ・チャレンジ島めぐり（課題選択型）

○補充的な内容を取り入れた指導

- ・じっくりプリント
- ・振り返りの時間
- ・ゲーム化

③フロンティアタイム

- ・補充的な指導に重点を置いた取り組み（町内4校共通）

- | | |
|--------------|--------|
| 1, 2年生 | 金曜日5校時 |
| 3, 4, 5, 6年生 | 月曜日6校時 |

2. 今後の課題

- ・習熟度別少人数指導のよさをさらに生かす指導方法の工夫を追求する。
- ・発展的指導・補充的指導の充実を図る。
- ・一人一人のよさを生かす評価のあり方を具体的にする。
- ・町内4校との共同研究の充実

IV 学力把握のための学校としての取り組み

○学習についてのアンケート調査 〈保護者〉〈児童〉

- 目的（内容）
- ・学校や学校での授業や過ごし方について意見や要望をつかむ
 - ・児童の学習への取り組みの状況をつかむ
 - ・客観的なデータを得る

- 時期
- | | |
|-----|-----------|
| 1回目 | 1学期（6月上旬） |
| 2回目 | 3学期（2月上旬） |

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

(1)「研究のあゆみ」作製配布

(2)町内4校のかかわり

- ・授業研究会の相互参観による情報の提供・交換（各校学期2回程度）
- ・夷隅地区協議会での発表

(3)本校ホームページ上での情報提供

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T. Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無